

り致して伽耶のステーションへ送り出し、瀛車に移して輸送することとなつたのであるが、輸送上の手續き一切は全く平田 藤田の兩領事の間に受渡され、印度内地を御尊像が輸送せられることとなつたのであるから凡てこれ帝國政府保護の下に無事に且つ安全に印度を釋尊が出發せられることとなつたのであります。

マハンタ法主と山ト曹源師、如斯御尊像の輸送に就ては、平田、藤田の兩領事の好意盡力を蒙つたことは多大であつたが又御尊像奉迎のために山上師が、カルカッタを出發したのは、四月の八日であつた。目下同地留學の日本青年紳士農商務省實業練習生、加島長次郎君、中村用兵衛君、石橋仁作君等の同行を請ひ、鐵路千哩を急行して伽耶驛に達し瀛車を下りて六哩佛陀伽耶のマハンタ法主の下に到着したのであります。マハンタ法主は一行を日本の大賓として非常なる優遇をせられたのみならず、會堂建設費の中へとて、即時に印貨五十留比の寄附を申込れなど致され、奉迎使山上師の一行は最上乘の首尾にて御尊像の贈與を受け、伽耶驛に出でて、遺憾なく輸送の用意を調へ四月十四日の午後千四百哩を隔てる孟買の領事館へ向け尊像の發送を了つたのであつた、郵船會社の厚意、斯くの如く、致して御尊像は無事に四月廿日を以て孟買領事館に御安着遊ばされれば、藤田領事は直ちに御尊像を日本郵船會社に引渡し、郵船會社は翌四月廿一日孟買港出帆の

鳥帽子丸に御乗船申上、本邦輸送のこととなつたのであります。日本郵船會社が此度青年傳道會請來の釋尊像輸送に就て特別の注意保護を盡され而も全部無賃乗船のことと引受けられたる厚意の段は謝するに辭なき次第であります。

### 淺草寺救護所

淺草寺は慈善の救護所を常設し參詣者不時の疾病或は醫藥の料乏しき者の爲めに何等手續の煩累を省き診療するの組織にして診察料藥價等は一切之を受けず純然たる施療處也特志家高木益太郎氏は當初より之の擧を賛し年々多額の義金を捐ち淺草寺の出費と合せて之に充て其他更に義捐を募るに非れども遠近此美擧を聞き傳へ寄附する篤志家亦尠なからず現今は日々數十の病者を療するに過ぎざれども企圖固より之に止まらず漸次救護の擴張を謀り以て遺憾なからしめんとす之れ御靈旨に倣へるの慈善偶然の事業にあらざるなり

### 功德日

一月一日 百日に向ふ

二月晦日 百日に向ふ

三月四日 九十日に向ふ

四月十八日 五十日に向ふ  
五月十八日 百日に向ふ  
六月十八日 五十日に向ふ  
七月十日 四萬六千日に向ふ  
八月廿四日 四千日に向ふ  
九月廿日 六十日に向ふ  
十月十九日 千日に向ふ  
十二月七日 六千六百日に向ふ  
三月十九日 四千六百日に向ふ  
右の日三年三ヶ月、欠かさず参詣すれば諸願成就、病氣平癒子孫繁昌するのみならず六親眷屬成佛すとぞ  
四萬六千日 毎歳七月九日十日兩日なり此日参詣すれば四萬六千日参詣したる功德と同一に向ふ

講 中

信徒團體の數枚擧に違あらず茲に大略を記すべし

造花講	御膳講	睦講	御菓子講	陀羅尼講
御札講	中御茶湯講	東御高盛講	永代御高盛講	一厘會
御疊講	元御茶湯講	觀音講	臨時講	提燈講
日參講	般若講	永代御茶湯講	御膳米講	御薰講
曼陀羅講	御油講	御手元講		

御靈域の現況

大慈大悲正觀世音菩薩を始め奉り一山祠堂塔碑の御縁由は既に記し終りたれば茲に御靈域の現況を略記せん

淺草公園は明治六年六月を以て正觀世音大士のまします靈域を擧げて之に充て同十七年一月公園の區畫を定む

公園の位置は淺草區の中央部稍々東に位し花川戸町馬道町を東に控へ西は田島町に面す南は東仲町新畑町に接し北は千束町馬道町に連なる分ちて七區に劃し觀世音寶座のまします所を第一區として其首位に置き奉り仁王門前より仲見世の在る所を第二區とし傳法院の所在地を第三區とし第四區は觀世音堂の西林泉及丘地の處とし第五區は觀世音堂北の一帯にして寫真店飲食店等ならび第六區は公園の西南部に在りて活動寫真其他多くの興業物軒を並べ壯麗にして華美を競ひ觀客の群集他に其比を見ず第七區は公園の東南を占め馬道町一丁目二丁目三丁目五丁目之に屬す四丁目六丁目七丁目八丁目は共に公園の附屬地なり御本堂の北部(第五區)は俗に奥山と稱し舊時子院のありし地にして堂北を北谷と云ひ堂東を東谷南仲見世の在る處を南谷と云ふ、明治十八年七月より第二區内仲見世の改築に

着手し東西兩側の店を煉瓦築造となし同十二月落成を告げ全く舊時の觀を改めたり又大に土工を起して道路の卑濕を改築し溝渠を通じ庭園を補修し且つ所在の寺院佛像墓碑遊戯店等の位置を移し區劃井然として庭園綺麗亦何等の聖地を汚すものなく噴水は新に珠玉を吐き金龍飛躍して中空に映じ泉池は八功德水を湛へて守養土の清涼を想はしめ遊魚常に其所を得て時に潑刺の聲を聞く樹木は蒼鬱として幽邃の趣轉た千古の淨域を偲ばしむ

明治四十二年一月公園中最も卑濕なる第六區の道路敷地を築營す、明治四十四年六月公園全部再び淺草寺の所屬に歸し面積實に十一萬千坪となり無双の靈域又日に盛況を加へぬ

嗚呼往昔は草より出で草に入る寂寥たりし一小村今や天下繁榮の中心となり惠露仁風豊にして靈雲霞き衆生鶴々として常世の春を謳歌するもの之れ大士の御靈懺に外ならざる也

# 淺草觀世音終

大正八年五月十五日印刷  
大正八年五月十八日發行

正價金八十錢  
郵税金八錢

著者 小島高踏  
東京市下谷區上野櫻木町十七番地

發行者 蒲池章  
東京市小石川區竹早町廿五番地

印刷者 小泉和二郎  
東京市小石川區久堅町四十五番地

印刷所 章文社印刷所  
東京市小石川區久堅町四十五番地



發行所

章文社

觀世音菩薩は我國に於ける垂迹甚だ多く到る處の寺院堂塔未  
だ曾て大士を奉祀せざるは非らず就中當靈場は其巨擘にして  
靈應殊に顯著なるが故に古來衆生の尊崇甚だ篤く信仰亦最も  
深し宜なる哉觀音薩埵とし稱ふれば世人必ず本寺の大士を念  
想す隨て幾多依信の徒其大慈悲光の實相を窺ひ奉らんとする  
や切なり茲に於て吾等不肖を不顧御靈蹟を拜纂す然れども其  
字句の迂拙に至つては竊かに慚愧に堪へず幸に之れを諒とし  
希くは本正傳に依て冥顯の利益を仰ぎ其信念を新たにせられ  
んことを

324

4431

324  
443

NO.

PATENTED NO. 119016

"F-M"

**PAMPHLET BINDERS**

are carried in stock in the following sizes

Catalog No.	High	Wide	Thick
851(菊倍)	30. cm. x	22.5cm. x	1cm.
852(四六倍)	26. „ x	18.5 „ x	1 „
853(菊)	22.5 „ x	15. „ x	1 „
854(四六)	18.5 „ x	12.5 „ x	1 „
855(特)	24. „ x	15. „ x	1 „

Special sizes are made to order

LIBRARY SUPPLIES IN ALL KINDS

F. MAMIYA & CO.

OSAKA-TOKYO-FUKUOKA

終

